



部門報 2026 Vol.59

ご挨拶

照りつける陽射しがまぶしい季節となりました。皆様におかれましては、お健やかにお過ごしのことと存じます。

新入生の皆様は、そろそろ桐朋での生活に慣れていらした頃でしょうか。

本学での学びには、主体的に学ぶ姿勢と探究心が求められます。与えられたものを受け取るだけではなく、自ら問いを立て、考え、選び取っていく。そうした姿勢によって、そこで得られる学びの深さは大きく変わってまいります。大学は、知識や技術を身に付ける場であると同時に「自分自身と向き合う場」でもあります。どのような音を響かせたいのか、どのような音楽家でありたいか、そうした問いを持ち続ける姿勢こそが皆様の芸術性を支える確かな礎となっていきます。桐朋で積み重ねる一つひとつの経験が、将来の新たな創造と表現を育む種となることを願っております。

さて、今年2月に開催されたミラノ・コルティナ冬季オリンピック・パラリンピックを、テレビでご覧になった方も多いのではないのでしょうか。選手たちが国境を越えてお互いを思いやる姿勢が随所にうかがわれ、その光景は競技の結果以上に心に深く残るものでした。

記録や順位を競う、厳しい舞台でありながら、競技を終えた後には、互いの健闘をたたえ合い喜ぶ。そこには、相手を敬い、努力を認め合う、真っ直ぐであたたかな心がありました。

そうした在り方は、人をいっそう美しく見せるのだと、改めて感じさせられました。技の完成度だけではなく、その背景にある日々の積み重ねや、葛藤にまで想いを寄せる。そのような想像力と思いやりこそが、心の強さにつながるのではないのでしょうか。音楽を志す私たちもまた、このような心を大切に育んでいきたいと思います。

舞台上で響き合う音楽は、決してひとりでは生まれ



桐朋学園大学院大学学長
桐朋学園大学学長
辰巳 明子

ません。これまで音楽文化を築き、伝えてこられた諸先輩方への敬意、日頃よりご指導くださる先生方への感謝、共に演奏する仲間への信頼、そして聴いてくださる皆様への想い。そのような真摯な心と優しさがあってこそ、音楽は言葉を越えて、人の心を結ぶ力を持つのだと思います。

今、世界はとても難しい状況が続いております。このような時だからこそ、言葉や国境をこえて、人と人とを結びつける音楽の持つ対話の精神と価値を私たちは改めて大切にしていきたいと思います。どうかこの桐朋学園での出会いと学びを大切に、自らの可能性を信じて邁進なさってください。

そしてこれからも、卒業生や保護者の皆様をはじめ、本学を支えてくださる多くの方々と共に、その歩みを見守り、育んでまいりたいと考えております。今後ともあたたかいご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

指揮者 高関健氏

音楽と真摯に向き合う ―― 受け継がれる桐朋の学び



指揮者として国内外で活躍を続ける高関健氏。桐朋学園で学び、ベルリンで研鑽を積んだ経験は、現在の音楽活動の礎となっています。辰巳明子学長との対談では、恩師との出会いや学生時代の思い出、留学生活、楽譜研究への取り組み、そして教育への思いなどを振り返りながら、桐朋ならではの学びと、その魅力について語っていただきました。

桐朋が結ぶ縁

辰巳：桐朋では、先生方とのつながりや先輩・後輩との縁が、本当に長く続きますね。高関先生とは同じ鷺見三郎先生門下でもあり、こうして今もお付き合いが続いていることを大変うれしく思っております。

高関：当時は親同士の交流がとて深く、中学生の頃、齋藤秀雄先生とのご縁をつくってくださったのが辰巳先生のお母様でした。私にとっては恩人のような存在です。辰巳先生とは留学先も同じドイツでしたし、さまざまなお縁が重なっているように思います。

辰巳：指揮者を志されたのも、その頃だったのですね。

高関：そうです。中学2年生のときでした。その年に挑戦した学生音楽コンクールで、本選まで進むことができたのです。本選に進んだのは4人でしたが、1人は辞退。そうした中、最終的に私は第3位という結果で、父から「ヴァイオリンはもうやめてしまえ」と言われてしまったんです。父は医師でしたから、音楽で生きていけるか心配していたのだと思います。それで、鷺見先生にお借りしていたヴァイオリンをお返すため、お宅にうかがったんですね。

突然のことに驚かれた鷺見先生が「続けないの？」と声をかけてくださり、そのとき、「実は指揮者になりたいんです」とお話ししたんです。それが、先ほどお話しした齋藤先生とのご縁につながりました。

齋藤先生からは、「ヴァイオリンで高校に入れたら指揮を教えよう」と言っていただきました。今もそうかもしれませんが、

当時は指揮を学ぶ学生のほとんどが器楽を専攻しました。そのため、まずはヴァイオリンに打ち込むことになりました。

辰巳：高校での3年間はいかがでしたか？

高関：私は「子供のための音楽教室」に通っていなかったこともあり、入学したばかりの頃は授業についていくだけで精一杯でした。そのこともあり、前期の試験では思うような成績が取れず、ずいぶん落ち込みました。

それが本当に悔しくて、それまで以上に真面目にレッスンに通い、後期の試験で挽回したんです。おかげで、オーケストラも上のクラスに上がることができ、そこから学校生活が格段に面白くなりました。

辰巳：当時はどのような学校生活を送られていたのでしょうか？

高関：多くの時間を学内で過ごし、仲間といつも一緒に弾いていました。4年先輩にヴァイオリニストの安永徹さんがいらして、安永さんの下宿には皆でよく泊めてもらいましたね。それから、鷺見先生のところで小学生の頃からいつも一緒だった山口裕之さんが2年先輩で、山口さんの家には夜も弾ける場所があり、それこそ夜通しでクアルテットを弾いていました。

ヴィオラを弾きたがる人が少なかったので、いつも私が担当していたのですが、指揮者になるために八音記号の楽譜に慣れておきたかったので都合が良かったんです。チェロは木越洋さんと北本秀樹さんが弾いたり、山崎伸子さんとご一緒したこともありましたね。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲全曲をやるの、なんて無謀なことも真剣に話していました（笑）。懐かしいですね。

辰巳：桐朋学園オーケストラで演奏した経験も、指揮に活かしていますか？

高関：それは間違いなく活かしています。ヴァイオリンを深く学んだ経験がありますから、指揮台に立っていても、奏者がどのように感じているのかがよく分かるんです。いつも、自分自身も演奏しているような感覚で音楽をつくっています。

ベルリンで学んだ7年間

辰巳：卒業後にドイツへ留学されたきっかけは、コンクールだったとうかがっています。

高関：そうです。大学4年生のときに、「カラヤン指揮者コンクール・ジャパン」で優勝し、ベルリン・フィル・オーケストラ・アカデミーへ留学する機会を得ました。

優勝したのが1977年11月のことで、その翌年3月に大学を卒業して、夏にはベルリンへ。それからすぐにカラヤンのアシスタントを務めることになりましたから、慌ただしかったですね。ベルリンでは、通算で約7年間、学ぶことができました。

辰巳：先ほどもお話に出ました安永さんが、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に入団された時期ですね。その後、ベルリン・フィルとも深い関わりを持つことになる作曲家・細川俊夫さんらもいらして、皆でよく交流しました。

高関：そうですね、当時はとても活気がありました。作曲、ピアノ、弦楽器……、管楽器ではトロンボーンの神谷敏先生やトランペットの田宮堅二先生らがいらして、多くの日本人音楽家が現地で活躍していました。

当時は、小澤征爾さんが年に数回ベルリン・フィルを指揮されていて、そのたびに練習から本番までを聴かせてくださるなど、多くの学びの機会を与えていただきました。本当にお世話になりました。

辰巳：帰国されたきっかけは？

高関：渡邊暁雄先生が日本フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会に呼んでくださったんです。その後、広島交響楽団の音楽監督・常任指揮者として活動を始めました。

どこへ行っても桐朋の卒業生がいてくれましたから、本当に心強かったですね。応援団のような存在でした。

楽譜研究へのこだわり

辰巳：高関先生は長年、楽譜の研究にも熱心に取り組んでいらっしゃいますね。

高関：それについても、原点は桐朋の学生時代にあります。齋藤秀雄先生のオーケストラの授業で、楽譜の読み解き方を徹底的に教えていただいたことが大きかったです。

ご存じのように、同じ作品でも出版社によって記譜が異なることがあります。「なぜ違うのか」「どちらが作曲家の意図に近いのだろうか」と考えるようになったのも、その頃でした。

辰巳：出版社や編集者ともやり取りをなさっているそうですね。

高関：最近では、ブルックナーやマーラーの新版について、海外の楽譜出版社の編集者とやり取りをしていました。今年3月に関西フィルハーモニー管弦楽団と共演したブルックナーの交響曲第8番が、その新しい版を用いた演奏会でした。新版の正式な世界初演の前の試演という形ではあったのですが、非常に興味深いものとなりました。作品の校訂に貢献できたことは、大変意義深い経験でした。

若い世代への想い

辰巳：桐朋学園オーケストラともご縁が深く、1991年3月には、カーネギーホール創立100周年記念演奏会で指揮をしていただきました。昨年度は、第16回音楽大学オーケストラ・フェスティバル2025でもご指導いただき、学生たちも大変喜んでおりました。

高関：私自身も学生オーケストラの指導は、いつも楽しみにしています。桐朋の学生たちは吸収力がありますから、できるだけ時間をとって、楽譜の読み方から丁寧に指導するようにしています。

昨年度は、課題となっていた曲が早めに仕上がったこともあり、オーケストラのオーディションで取り上げられることの多いR・シュトラウスの交響詩《ドン・ファン》もやりました。急遽決めたにもかかわらず、皆、翌日にはしっかり準備できていましたから、本当に素晴らしいですね。

辰巳：学生オーケストラを指導するにあたって、心掛けていらっしゃることはありますか？

高関：私にとっては何度も取り上げてきた作品でも、学生さんたちにとっては初めて出会うモーツァルトやベートーヴェンかもしれません。最初に受けた印象というのは鮮烈に記憶に残り、その後の音楽家人生にも大きな影響を与える可能性があります。だからこそ、一つひとつの作品に真剣に向き合いながら教えなければならぬと思っています。若い世代と向き合う責任の重さは、いつも感じています。

辰巳：指揮を教えることについてはいかがでしょうか。

高関：指揮者の育成は、楽器のように基本的なメソッドを教えれば身につくというものではありませんから、また違った難しさがあります。

こちらが伝えることを吸収するにも、「こういう音楽をつくりたい」という明確な意思を持って学ぶ人ほど、大きく成長していきます。ですから、今では名前が知られるようになった教え子たちについても、「私が育てた」というより、自分の力で成長していったという印象の方が強いですね。

辰巳：今、改めて桐朋をご覧になって、どのようなところに魅力を感じていらっしゃいますか。

高関：そうですね。やはり、昔も今も変わらないのは、昔ながらの塾のような温かい雰囲気です。高校から大学まで、先輩や後輩、先生方との距離が近く、世代を超えて学び合える環境は本当に素晴らしいと思います。この雰囲気は、これからのぜひ受け継いでいってほしいですね。

辰巳：そうした雰囲気に加え、大学の制度についても、学生たちの学びの意欲を妨げないよう、常に見直し、改善を重ねてきました。そのひとつが副専攻制度です。

主専攻に加えて、もうひとつの分野を学ぶことができる制度で、器楽を主専攻とする学生が、副専攻として指揮を選択するケースも増えています。

高関：桐朋らしい柔軟さを感じますね。指導する先生方にとっても、魅力のある制度なのではないでしょうか。齋藤先生の精神が、そうしたところにも色濃く受け継がれているように感じます。

専攻を超えた学びという点では、特別講座の充実ぶりも変わりませんね。私が高校1年生のときにはアイザック・スターン、レナード・ローズ、ユージン・イストミンのトリオによる公開レッスンがありました。本当に貴重な機会だったので、403教室にギュウギュウに集まって……。

指揮者として歩み続けるために

辰巳：指揮者として、一番のやりがいは何でしょうか？

高関：「指揮」そのものが、とても魅力的な仕事だということです。私は常に、楽譜を読みながら「作曲家は、この作品を通して何を伝えたかったのか」と考えることを何より大切にしています。その答えが見つからないうちは、もっと勉強しなければと思うんです。

そして実際にオーケストラと向き合い、演奏してみると、「ああ、こういうことだったのか」と腑に落ちる瞬間があります。その積み重ねが、また次の演奏につながっていく。そこに一番のやりがいを感じています。

辰巳：桐朋で過ごした時間は、現在の指揮者としての歩みにどのようにつながっていますか。

高関：高校から大学まで桐朋で学び、その間に、自分は何をやりたいのか、どのような音楽を目指したいのか、その原点となるものを、桐朋での時間の中ですべて教えていただいたように思います。

齋藤秀雄先生の存在はもちろんですが、多くの先生方や仲間との出会い、積み重ねてきた経験のすべてが、今の私につながっています。

桐朋には、昔から変わらない独特な雰囲気があります。その良さを大切にしながら、これからも発展していってほしいと願っています。

文／向後由美

株式会社龍角散 代表取締役社長 藤井隆太氏 自分らしさを求めて —— 音楽が育んだ経営の原点



本学でフルートを学び、現在は株式会社龍角散代表取締役社長として活躍する藤井隆太氏。桐朋での学びは、音楽家としてだけでなく、経営者としての歩みにも大きな影響を与えてきました。辰巳明子学長との対談で、その原点をうかがいました。

辰巳：藤井さんはお子さんの頃、ヴァイオリンを弾かれていましたね。どのようなきっかけで始められたのですか？

藤井：両親が言うには、「ヴァイオリンを弾きたそうな顔をしていたから習わせた」とのことでしたが、物心がつく前のことです。真偽のほどは定かではありません。父はピアノとフルートを、母はヴァイオリンを弾き、仲間を集めてアンサンブルを楽しんでいました。そういう環境で育ちましたから、おそらく私も幼い頃から音楽が好きだったのでしょう。

辰巳：最初に師事された久保田良作先生は名教師であり、本学の教授でもありました。レッスンはいかがでしたか？

藤井：ヴァイオリンの基本的な奏法をしっかりと教えていただいたという実感があります。ボウイングの単調な練習を、来る日も来る日も徹底的に繰り返すので、まるで呼吸をするかのような自然な奏法が身につくんです。その感覚は今も薄れることなく、身体に残っています。

辰巳：子供のための音楽教室に入室されたのは？

藤井：小学2年生の頃だったと思います。その後、中学1年生で弦楽アンサンブルのクラスに入り、齋藤秀雄先生にご指導いただきました。今でもよく覚えているのですが、最初に保護者と生徒が教室に集められ、説明を受けました。そこで齋藤先生が、「オーケストラは全員出席が原則。一人でも欠けたらレッスンはやらん。親の死に目には会えないと思え」とおっしゃったんです。「これはえらいところに来てしまったな」と思いましたね（笑）。遅刻にも非常に厳しく、音楽だけではなく、社会で生きていくための礼儀や責任感を教えていただきました。

辰巳：厳しい中にも優しさの溢れる先生でした。ところで、ヴァイオリンからフルートに転向されたきっかけは？

藤井：私が中学生の頃、桐朋で管楽器を強化しようという動きがあり、林りり子先生のグループレッスンを受けることになったんです。そこで先生から「個人レッスンにいらっしやい」と声をかけていただき、それが最初のきっかけでした。

管楽器は初めてでしたが、楽譜を読むことと、正しい音程を取る感覚は既に身につけていましたので、先生の目に留まったのかもしれませんが、それからしばらくヴァイオリンと並行して学んでいましたが、最終的にはフルート一本に絞ることにしました。

林先生は他界される前に、次に私が師事する先生へ「藤井を辞めさせてはいけない」という言葉を残してくださっていたそうです。しかしその頃、私は既に中学2年生になっていましたから、転向はある意味賭けでもありました。

高校への合格の知らせは、ヴァイオリンの恩師である久保田先生からいただきました。「おめでとう」と言っていたいたときは、本当に安心しました。

辰巳：桐朋学園大学を卒業した後にパリへ？

藤井：高校、大学と小出信也先生のもとで学び、研究生として在学していたとき、クリスティアン・ラルデ先生に師事するため、エコール・ノルマル音楽院へ留学しました。先生のクラスにはヨーロッパ各地から優秀な奏者が集まっていた。普段はまったく目立たない学生も、人前で演奏する際には思い切り自分を表現するんです。こちらに訴えかけてくるような演奏に、稲妻に打たれたような衝撃を受けました。

ヨーロッパはクラシック音楽の本場です。どれだけ努力して真似をしても、本当の意味では超えることはできないと思い知らされたんです。「文化が違うのだから、ただ真似をするのではなく、アジア人ならではのスタイルや、自分だけの表現を追求しなければならないのではないか」と模索する日々が続きました。

ある時、そんな私を見かねた父が、「音楽を辞めろとは言わないが、そういうことを追求したいのであれば、ビジネスを経験した方が早いぞ」と声をかけてくれました。私も自分なりのブレイクスルーを求めていましたので、思い切ってビジネスの世界に飛び込んでみることにしたんです。小林製薬と三菱化成工業（現・三菱ケミカル）で修業を積み、1994年に龍角散に入社。翌年35歳のときに代表取締役社長を父から引き継ぎました。

辰巳：龍角散の社長に就任され、音楽の経験はどのように活きましたか？

藤井：一番は、独自性を見極めるための思考力です。「オンリーワンになるにはどうすればいいか」を徹底的に考える。その思考は、まさに音楽で養われたものです。

中小企業は、大企業の真似をしていては駄目なんです。自社の規模や特性に見合った独自性を追求しなければなりません。弊社で言えば、それはブランド力であり、主力商品の魅力にあたります。会社を立て直す際には、その強みに経営資源を集中させました。そして、主力商品を長年愛用して下さっている方々の声に耳を傾け、そこで集まった意見をもとに、商品のコンセプトから見直し、会社を立て直しました。それができたのは音楽を学んだからこそだと思っています。

辰巳：最後に、現在桐朋で学ぶ生徒、学生たちにメッセージをいただけますか。

藤井：子どもの頃から初歩をていねいに積み重ねていくという考え方は、創設時から変わらない、桐朋らしい素晴らしい教育理念だと思います。そこで身につけた力は産業界でも充分通用することは私が証明しています。音楽の世界で頑張るのは勿論ですが、是非音楽以外の道でもご自身の力を発揮して社会に貢献してください。

桐朋から世界へ、そして世界から桐朋へ



沼野雄司
教授（音楽学）



南紫音
非常勤講師（ヴァイオリン）



沼沢淑音
准教授（ピアノ）

桐朋で学び、それぞれロシアとドイツで研鑽を積んだ、ピアニスト・沼沢淑音先生とヴァイオリニスト・南紫音先生。世界で培った経験を携え、教育者として次の世代の育成にも力を注いでいます。2024年度より准教授として後進の指導に当たっている沼沢先生と、今年度非常勤講師になられた南先生に、学生時代の思い出や海外留学で得た学び、そして教育への思いについて、学部長で音楽学教授の沼野雄司先生がお話をうかがいました。

沼野：桐朋にいらしたきっかけは？

沼沢：小学生の頃に、子供のための音楽教室（相模原）に通いはじめました。当時はまだ牧歌的で、晴れた日には近くの公園に行き、先生がジャック・ティボーの昔の録音を聴かせてくれたり（笑）。その後、桐朋の高校に進みました。

沼野：どんな3年間でした？

沼沢：男子が多い年だったこともあって、まあ、だいぶやんちゃでしたね。先生方にはいろいろご迷惑を……。高校を終えてからは、ソリスト・ディプロマに進みました。

沼野：途中でロシアに留学されています。

沼沢：エリソ・ヴィルサラゼに習いたくて、最初は彼女が教えているというドイツの大学に申しかけたんですが、もう満員だったんです。そうしたら彼女が「モスクワに来なさい」と。結局、モスクワ音楽院には6年いたかな。いろいろ苦労もありましたが、ソルフェージュなどの音楽的な基礎教育は桐朋でしっかりとやっていたので、助かりましたね。

沼野：南さんは大学から桐朋ですね。それまではどんなふうに？

南：実家が北九州だったのですが、最初は近くの先生に習って、その後、小学6年生からは原田幸一郎先生に師事して、東京までレッスンに通っていました。

沼野：高校から桐朋に行こうとは思わなかった？

南：本当は行きたかったんです。でも、高校で一人暮らしをするのを親が許してくれなくて。あの時は本当に泣きました（笑）。

沼野：大学からようやく桐朋に。

南：桐朋は高校から上がってくる人が多いので、最初はちょっと戸惑いました。また、周りのレベルも高いので、こちらも一生懸命で、でも、何より驚いたのがオーケストラ！大勢が集まって音楽をする体験がそれまであまりなかったので、本当に感激し

ましたね。

沼野：では再び沼沢先生にうかがいます。モスクワではどんなことを学びましたか？

沼沢：旋律を短く縦割りにするのではなく、アクセントをつけずに長いフレーズを作ることでしょうか。最初はなかなかできなかった。当時のモスクワ音楽院はレッスン室のピアノも古いものばかりで、ちょっと鍵盤がガタガタしているような楽器も多かったのですが、それでも先生のヴィルサラゼは平気で長いフレーズを作ってしまう。まさにネイガウス流のインタービレなんです。

沼野：そうしたピアノで練習するというのは、なんだか大リーグ養成ギブスを付けているみたいですね。あ、譬えが古いかな（笑）。

沼沢：実際、日本に帰ってきたらピアノの状態が良いので、長いフレーズもだいぶラクでした（笑）。モスクワでは、弦楽器の学生もそんなに良い楽器を持っていたわけではなかったけれど、それでもみんな頑張っていましたね。

沼野：南さんの留学生活はどうでしたか。

南：私は学部を出たあと、ハノーヴァー音楽大学で5年ほど学びました。向こうの学生は、技術に少々難があっても、「こういう音楽がやりたい」という気持ちが入り込んでいて強いんですね。まずはそれに驚きました。また、ドイツはとてもゆっくりと時間が流れているんです。そうした環境のなかで、はじめてシューベルトの音楽が分かった気がしました。

沼野：さて、お二人は教員という立場で桐朋に帰ってくるようになりました。どんな先生なのでしょう。

沼沢：ルーピンシュタインは、「音楽を教えることなんて無理だ」という意味のことを言っているんですが、確かにそうかもしれない。でも、だからこそ学生に無理やり教え込むのではなく、一緒に何かを共有することを考えたい。

沼野：「コラー！」なんて怒ったりはしない？

沼沢：しないですね。教員としてはよくないのかも（笑）。ただ、とにかく音楽を好きになってほしいから、生徒が十分に練習しないでレッスンに来たときでも、話だけはするとか、時には自分がその曲を弾いちゃったり（笑）。

沼野：南さんもきっと、怒鳴ったりはしないよね。

南：しません（笑）。私も音楽を奏でる喜びをポジティブに感じ取ってほしいと、いつも思っています。

沼野：最後に演奏家としてのこれからについて。

沼沢：もともと僕は、かつてのロマンティックな巨匠の演奏が好きなんです。音を聴けば、すぐに誰の演奏が分かるような。自分も、そういう意味では常に個性的な演奏家でありたいですね。

南：演奏家って孤独に閉じこもりがちなので、私はなるべく社会に開かれたかたちで音楽をやっていききたいですね。

沼野：お二人のような方が桐朋の教育を担っているというのは、本当に誇らしいな。これからもよろしくお願いいたします。

文／沼野雄司

●ぬまさわ・よしと：広瀬康、野島稔、エリソ・ヴィルサラゼの各氏に師事。2013年、シュニトケ国際コンクール優勝、15年第29回ポツォーリ国際ピアノコンクール優勝など、受賞歴多数。アルゲリッチ氏に別府アルゲリッチ音楽祭に招かれるなど国内外において精力的に演奏活動を展開する。
●みなみ・しおん：原田幸一郎、クシシトフ・ヴェグジンの各氏に師事。2005年ロン＝ティボー国際コンクール第2位、15年ハノーヴァー国際ヴァイオリン・コンクール第2位など受賞歴多数。近年、バロック音楽にも傾倒しており、25年にはオール・ヘンデルのリサイタルを行うなど意欲的な活動を展開している。



教授（ピアノ／大学）

有吉亮治

2026年4月1日より教授を拝命いたしました有吉亮治です。

音楽は響き合うことで豊かな表現になります。少子化、音楽離れといわれる昨今ですが、そんな時代だからこそ、音楽の豊かさや、人と人をつなぐ力がこれまで以上に必要だと考えます。

学生、教職員、卒業生、そして地域の皆様と力をあわせ、桐朋学園大学の豊かな未来を築いていけるよう、誠心誠意努めてまいります。これからもうぞよろしく願いいたします。



教授（ヴァイオリン／大学）

神谷美千子

2026年4月より教授に就任いたしました神谷美千子です。これまで准教授として学生の指導に携わるとともに、演奏活動を通して音楽の魅力や表現の奥深さを探求してまいりました。

私自身も桐朋で学び、多くの師や仲間との出会いに育てられた一人です。本学での経験を糧に、演奏家として培ってきた感性や学びを教育に生かし、学生一人ひとりが自分らしい音楽を見つけ、豊かに表現できるよう努めてまいります。

桐朋ならではの自由な学びの環境を大切に、音楽文化の豊かさを次の世代へ受け継いでいけるよう、学生とともに歩んでいきたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



准教授（ピアノ／大学院大学）

山本貴志

本年度より富山・大学院大学にてピアノ科教員を務めております山本貴志でございます。

子供のための音楽教室に始まり、高校そしてディプロマ・コースと、桐朋学園のきめ細やかな教育を長きにわたって享受してまいりました中で、先生方から「音楽表現の上で肝心なのはあなた自身の内面の充実です」と言葉をいただいたことが印象に残っています。

学生の皆さん一人ひとりの個性、輝きを大切にしながら、寄り添ってゆけたらと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



教授（音楽学／大学院大学）

近松博郎

音高・音大と国公立で学び、地味な性格の私にとって桐朋学園は本物の奇才・天才が集まる華やかな私立音大の筆頭というイメージが強く、もっとも縁遠い存在と思っていました。よって2024年に非常勤講師として着任した際には、世の中わからないものだと感じた次第です。

富山キャンパスは自然豊かで、広く、きれいで、ゆったりとした時間が流れています。全国の音大が急激な変化の波にさらされている現代における「最後の楽園」といっても過言ではないかもしれません。落ち着いた環境で学生たちと音楽の本質にじっくり向き合える日々感謝しています。



専任職員（事務局）

中村真璃彩

2026年4月に専任職員として入職いたしました、管理グループ財務チームの中村真璃彩と申します。

学生時代は、朝から夜まで友人と共に音楽に没頭する毎日を過ごしていました。その時に得た経験や仲間は、今でも私の宝物です。

普段、直接関わる機会は少ないかもしれませんが、今度は職員という立場から、皆様にとっての桐朋学園大学で過ごす日々が、一生の宝物となるよう、全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2025 年度音楽部門決算概要

【表1】資金収支決算対比表

2025 年度の資金収入は、学生生徒等納付金収入が大学生数等の減少により 2,428,431 千円となりましたが、補助金収入では「高等教育の修学支援新制度授業料減免」の多子世帯支援の大幅な拡大により交付金が増額し、435,091 千円の収入となりました。

その他の収入では寄付金収入が 89,491 千円と前年度より 25,361 千円増加しましたが、前述の学生生徒等納付金収入が大きく影響し合計 3,089,443 千円、対前年度比△ 41,142 千円となりました。

一方資金支出では定年等退職者が 2 名増え退職金支出が増加し、人件費支出全体では 1,964,117 千円となった他、奨学金による奨学費支出の増加により教育研究経費支出でも 12,423 千円に支出が増加しました。

管理経費支出やその他の支出に含まれる設備関係支出では 2024 年度単年に発生した費用差が要因となり支出額は抑えられましたが、全体で 3,368,441 千円となり、対前年度比で 104,864 千円増加しました。結果、次年度繰越支払資金は対前年度比△ 278,998 千円の 1,194,403 千円となりました。

【表2】事業活動収支決算対比表

2025 年度の事業活動収支においては施設設備寄付金が大きく増加し 47,421 千円となりましたが、経常収支差額は△ 462,591 千円となり、この支出超過を回収するには至らず、基本金組入前当年度収支差額は△ 494,158 千円、事業活動収入に対する割合は△ 16.13%となりました。

【表1】 資金収支決算対比表

(単位:千円、%)

科目		2024年度 A	2025年度 B	増減B-A	
				金額	増減率
資金収入	学生生徒等納付金収入	2,499,298	2,428,431	△70,868	△ 2.9
	補助金収入	417,930	435,091	17,161	3.9
	その他の収入	213,356	225,921	12,564	5.6
	単年度収入合計	3,130,585	3,089,443	△41,142	△ 1.3
資金支出	人件費支出	1,927,237	1,964,117	36,880	1.9
	教育研究経費支出	910,885	923,308	12,423	1.3
	管理経費支出	139,690	135,296	△4,394	△ 3.2
	その他の支出	285,764	345,720	59,955	17.3
単年度支出合計		3,263,577	3,368,441	104,864	3.1
支払資金増減額		△132,992	△278,998	△146,006	0.5
前年度繰越支払資金		1,606,393	1,473,401	△132,992	△ 9.0
次年度繰越支払資金		1,473,401	1,194,403	△278,998	△ 23.4

【表2】 事業活動収支決算対比表

(単位:千円、%)

	科目	2024年度 A	2025年度 B	増減B-A	
				金額	増減率
経常収支	収入合計	3,082,638	2,996,611	△86,028	△ 2.9
	退職給与引当金繰入額	65,878	93,364	27,487	29.4
	その他人件費	1,867,736	1,892,762	25,025	1.3
	(教)減価償却額	292,514	285,327	△7,187	△ 2.5
	(管)減価償却額	40,365	40,195	△170	△ 0.4
	その他	1,146,444	1,148,765	2,321	0.2
	支出合計	3,412,937	3,460,413	47,476	1.4
	収支差額	△330,299	△463,802	△133,503	28.8
	科目	2024年度	2025年度	増減B-A	
	収入合計	1,387	4,341	2,954	68.1
	支出合計	3,413	3,130	△283	△ 9.0
	収支差額	△2,026	1,211	3,237	267.3
特別収支	収支差額	△332,325	△462,592	△130,266	28.2
	科目	2024年度	2025年度	増減B-A	
	現物寄付	51,131	725	△50,405	△ 6,951.2
	その他	15,286	62,616	47,330	75.6
	収入合計	66,417	63,341	△3,075	△ 4.9
	支出合計	839	94,908	94,069	99.1
	収支差額	65,578	△31,567	△97,145	307.7
	基本金組入前当年度収支差額	△266,747	△494,158	△227,411	46.0
	(事業活動収入に対する割合 %)	△ 8.47%	△ 16.13%		
	基本金組入額合計	△127,577	△135,267	△7,690	5.7
	当年度収支差額	△394,324	△629,426	△235,101	37.4
	前年度繰越収支差額	△2,982,124	△3,376,448	△394,324	11.7
	基本金取崩額	0	3,945	3,945	100.0
事業活動	翌年度繰越収支差額	△3,376,448	△4,001,929	△625,480	15.6
	事業活動収入計	3,150,441	3,064,293	△86,149	△ 2.8
事業活動	事業活動支出計	3,417,189	3,558,451	141,262	4.0

【表3】 学生生徒数・学生生徒等納付金収入の推移

(単位:人、千円)

区 分	2024年度	2025年度	増減	2024年度	2025年度	増減
	A	B	B-A	A	B	B-A
大学	561	524	△ 37	1,222,947	1,147,065	△75,882
大学院(東京)	117	133	16	173,245	203,787	30,542
大学科目等履修生	145	142	△ 3	119,029	123,083	4,054
高校	164	165	1	189,710	199,398	9,689
音楽教室	2,015	1,847	△ 168	743,663	701,603	△42,060
仙川キャンパス計	3,002	2,811	△ 191	2,448,593	2,374,936	△73,658
大学院	12	14	2	11,600	12,300	700
アカデミー	59	62	3	39,105	41,195	2,090
富山キャンパス計	71	76	5	50,705	53,495	2,790
合 計	3,073	2,887	△ 186	2,499,298	2,428,431	△70,868

(注) 学生生徒数は各年度5月1日現在の人数(但し、音楽教室は3月31日現在)

【表4】 補助金収入の推移

(単位:千円)

区 分	2024年度	2025年度	増減
	A	B	B-A
大学(国庫補助金)一般補助	54,811	50,343	△4,468
特別補助			
Ⅰ. 成長力強化に貢献する質の高い教育	0	0	0
Ⅱ. 社会人の組織的な受入れ	0	0	0
Ⅲ. 大学等の国際交流の基盤整備	0	0	0
Ⅳ. 大学院等の機能の高度化	2,449	3,787	1,338
(内訳)大学院における研究の充実	(2,449)	(2,887)	(438)
(内訳)大学院生に対する授業料減免事業等支援		(900)	(900)
高等教育の修学支援新制度授業料減免	28,470	50,301	21,831
大学(東京都)結核予防補助	37	64	27
高校(東京都)一般補助	69,738	72,763	3,025
特別補助	7,281	6,711	△570
結核予防費補助	18	20	2
都内生就学促進補助	344	413	68
授業料軽減助成金	33,260	28,651	△4,609
就学支援金学校事務費補助	530	569	39
大学・高校(調布市)保存樹木剪定補助	200	0	△200
高校(調布市)調布市市内事業者物価高騰支援事業費補助金	20	0	△20
仙川キャンパス計	197,158	213,621	16,463
大学院大学(国庫補助金)一般補助	5,772	6,470	698
(富山市)運営費補助	91,324	95,399	4,075
施設整備費補助	15,000	15,000	0
オーケストラ・アカデミー(富山市)運営費補助	108,676	104,601	△4,075
富山キャンパス計	220,772	221,470	698
合 計	417,930	435,091	17,161

【表5】 財産目録総括表

(単位:千円)

科 目	科 目
一、基本財産	7,884,253
1. 土地 (22,946㎡)	772,709
2. 建物 (22,415㎡)	5,527,789
3. 構築物	111,408
4. 機器備品 (9,291点)	495,090
5. 図書 (276,817冊)	977,256
6. 建設仮勘定	0
二、運用財産	2,609,193
1. 預金・現金	1,194,403
2. 特定資産	1,034,274
3. 有価証券	1,707
4. その他	378,809
三、負債額	1,976,319
1. 固定負債	1,400,207
(1) 長期借入金	641,940
(2) 退職給与引当金	758,267
2. 流動負債	576,112
(1) 短期借入金	66,660
(2) 未払金	60,698
(3) 前受金	315,973
(4) 預り金	41,474
(5) 賞与引当金	91,307
四、基本財産+運用財産	10,493,446
五、純資産(四-三)	8,517,126
総負債比率:	18.83
総負債(三)÷総資産(四)×100	%

2025年度 決算総括表

資金収支計算書

収入の部

(単位:千円)

科目／摘要		a.2025年度 第2次補正予算	b.2025年度 決 算	構成比	a. - b.	c.2024年度 決 算	b. - c.
収 入 の 部	【 1 】 学生生徒等納付金収入	2,419,869	2,428,431	53.22	△8,562	2,499,298	△70,868
	【 2 】 手数料収入	20,179	22,646	0.50	△2,467	23,692	△1,047
	【 3 】 寄付金収入	89,620	89,491	1.96	129	64,130	25,361
	【 4 】 補助金収入	444,056	435,091	9.54	8,965	417,930	17,161
	【 5 】 資産売却収入	0	0	0.00	0	0	0
	【 6 】 付随事業・収益事業収入	△6,106	△5,953	△0.13	△153	△6,640	688
	【 7 】 受取利息・配当金収入	4,490	4,341	0.10	150	1,387	2,954
	【 8 】 雑収入	79,857	81,359	1.78	△1,502	98,328	△16,969
	【 9 】 借入金等収入	0	0	0.00	0	0	0
	【10】 前受金収入	319,881	315,973	6.92	3,908	337,190	△21,217
	【11】 その他の収入	340,499	347,146	7.61	△6,647	316,592	30,554
	【12】 資金収入調整勘定(△)	△630,482	△637,244	△13.97	6,762	△622,509	△14,735
	【13】 他部からの繰入金	9,968	8,162	0.18	1,806	1,186	6,976
	単年度収入合計	3,091,832	3,089,443	67.71	2,390	3,130,585	△41,142
【14】 前年度繰越支払資金		1,473,401	1,473,401	32.29	0	1,606,393	△132,992
合 計		4,565,234	4,562,844	100.00	2,390	4,736,978	△174,134

支出の部

科目／摘要		a.2025年度 第2次補正予算	b.2025年度 決 算	構成比	a. - b.	c.2024年度 決 算	b. - c.
支 出 の 部	【 1 】 人件費支出	1,995,131	1,964,117	43.05	31,014	1,927,237	36,880
	【 2 】 教育研究経費支出	937,515	923,308	20.24	14,207	910,885	12,423
	【 3 】 管理経費支出	139,490	135,296	2.97	4,194	139,690	△4,394
	【 4 】 借入金等利息支出	3,130	3,130	0.07	0	3,413	△283
	【 5 】 借入金等返済支出	66,660	66,660	1.46	0	66,660	0
	【 6 】 施設関係支出	54,275	52,629	1.15	1,646	222	52,407
	【 7 】 設備関係支出	36,812	30,065	0.66	6,747	35,779	△5,714
	【 8 】 資産運用支出	67,755	67,169	1.47	586	37,830	29,339
	【 9 】 その他の支出	115,045	110,009	2.41	5,037	123,175	△13,166
	【10】 [予備費]	11,100	0	0.00	11,100	0	0
	【11】 資金支出調整勘定(△)	△81,001	△74,654	△1.64	△6,347	△77,698	3,043
	【12】 他部への繰出金	94,793	90,713	1.99	4,080	96,384	△5,672
単年度支出合計		3,440,704	3,368,441	73.82	72,263	3,263,577	104,864
単年度収支差額		△348,871	△278,998	△6.11	△69,873	△132,992	△146,006
【13】 翌年度繰越支払資金		1,124,530	1,194,403	26.18	△69,873	1,473,401	△278,998
合 計		4,565,234	4,562,844	100.00	2,390	4,736,978	△174,134

事業活動収支計算書

(単位:千円)

科目／摘要			a.2025年度 第2次補正予算	b.2025年度 決 算	構成比	a.－ b.	c.2024年度 決 算	b.－ c.
教育活動収支	事業活動収入	【 1 】 学生生徒等納付金	2,419,869	2,428,431	79.25	△8,562	2,499,298	△70,868
		【 2 】 手数料	20,179	22,646	0.74	△2,467	23,692	△1,047
		【 3 】 寄付金	41,909	41,880	1.37	29	63,940	△22,060
		【 4 】 経常費等補助金	429,056	420,091	13.71	8,965	402,930	17,161
		【 5 】 付随事業収入	△6,106	△5,953	△0.19	△153	△6,640	688
		【 6 】 雑収入	79,847	81,354	2.65	△1,506	98,232	△16,878
		【 7 】 他部からの繰入金	9,968	8,162	0.27	1,806	1,186	6,976
		教育活動収入計	2,994,723	2,996,611	97.79	△1,888	3,082,638	△86,028
	事業活動支出	【 1 】 人件費	2,019,236	1,986,126	64.82	33,110	1,933,614	52,512
		【 2 】 教育研究経費	1,222,842	1,208,635	39.44	14,207	1,203,399	5,236
		【 3 】 管理経費	178,784	174,898	5.71	3,886	179,457	△4,560
		【 4 】 徴収不能額等	2,935	42	0.00	2,893	83	△41
		【 5 】 他部への繰出金	94,793	90,713	2.96	4,080	96,384	△5,672
		教育活動支出計	3,518,588	3,460,413	112.93	58,175	3,412,937	47,476
	教育活動収支差額		△523,866	△463,802	△15.14	△60,063	△330,299	△133,503
科目／摘要			a.2025年度 第2次補正予算	b.2025年度 決 算	構成比	a.－ b.	c.2024年度 決 算	b.－ c.
教育活動外収支	事業活動収入	【 1 】 受取利息・配当金	4,490	4,341	0.14	150	1,387	2,954
		【 2 】 その他の教育活動外収入	0	0	0.00	0	0	0
	教育活動外収入計		4,490	4,341	0.14	150	1,387	2,954
	事業活動支出	【 1 】 借入金等利息	3,130	3,130	0.10	0	3,413	△283
		【 2 】 その他の教育活動外支出	0	0	0.00	0	0	0
	教育活動外支出計		3,130	3,130	0.10	0	3,413	△283
	教育活動外収支差額		1,360	1,211	0.04	150	△2,026	3,237
経常収支差額		△522,505	△462,592	△15.10	△59,914	△332,325	△130,266	
科目／摘要			a.2025年度 第2次補正予算	b.2025年度 決 算	構成比	a.－ b.	c.2024年度 決 算	b.－ c.
特別収支	事業活動収入	【 1 】 資産売却差額	0	0	0.00	0	0	0
		【 2 】 その他特別収入	63,221	63,341	2.07	△121	66,417	△3,075
		特別収入計	63,221	63,341	2.07	△121	66,417	△3,075
	事業活動支出	【 1 】 資産処分差額	3,185	3,131	0.10	54	241	2,889
		【 2 】 その他の特別支出	92,084	91,778	3.00	306	598	91,180
		特別支出計	95,269	94,908	3.10	360	839	94,069
	特別収支差額		△32,048	△31,567	△1.03	△481	65,578	△97,145
	〔予備費〕		11,100	0	0.00	11,100	0	0
	基本金組入前当年度収支差額(①－②)		△565,653	△494,158	△16.13	△71,495	△266,747	△227,411
	基本金組入額合計		△138,101	△135,267	△4.41	△2,834	△127,577	△7,690
当年度収支差額		△703,755	△629,426	△20.54	△74,329	△394,324	△235,101	
前年度繰越収支差額		△3,376,448	△3,376,448		0	△2,982,124	△394,324	
基本金取崩額		0	3,945		△3,945	0	3,945	
翌年度繰越収支差額		△4,080,203	△4,001,929		△78,274	△3,376,448	△625,480	
事業活動収入計 ①			3,062,434	3,064,293	100.00	△1,859	3,150,441	△86,149
事業活動支出計 ②			3,628,087	3,558,451	116.13	69,636	3,417,189	141,262

貸 借 対 照 表

2026年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	8,983,155,310	9,161,719,232	△178,563,922
有形固定資産	7,884,252,809	8,126,104,166	△241,851,357
土地	772,709,406	772,709,406	0
建物	5,527,789,467	5,742,858,619	△215,069,152
構築物	111,407,707	122,812,780	△11,405,073
教育研究用機器備品	477,854,352	504,044,650	△26,190,298
管理用機器備品	17,235,402	19,898,906	△2,663,504
図書	977,256,475	963,779,805	13,476,670
車両	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
特定資産	1,034,274,253	967,604,940	66,669,313
第2号基本金引当特定資産	0	0	0
第3号基本金引当特定資産	0	0	0
施設設備引当特定資産	376,222,641	325,551,578	50,671,063
退職給与引当特定資産	30,688,216	30,625,089	63,127
記念事業引当特定資産	0	0	0
教育研究引当特定資産	0	0	0
江戸奨学引当特定資産	0	0	0
本部役職員退職金引当特定資産	0	0	0
特別奨学基金引当特定資産	24,403,928	23,055,700	1,348,228
教育特別活動引当特定資産	0	0	0
鍋島元子奨学基金引当特定資産	8,403,302	8,386,017	17,285
芸術教育整備拡充資金及び奨学基金引当特定資産	513,517,551	512,461,069	1,056,482
フィロソフ・ル・サイト奨学基金引当特定資産	2,143,217	2,537,987	△394,770
桐朋学園音楽部門学生会館運営基金引当特定資産	9,991,397	9,777,438	213,959
桐朋学園音楽部門70周年記念基金引当特定資産	20,589,416	20,547,063	42,353
若手音楽家支援プロジェクト引当特定資産	1,013,465	958,155	55,310
佐々木成子賞奨学基金引当特定資産	952,856	1,050,666	△97,810
齋藤秀雄記念教育基金引当特定資産	32,848,264	32,654,178	194,086
奨学寄付基金引当特定資産	13,500,000	0	13,500,000
その他の固定資産	64,628,248	68,010,126	△3,381,878
借地権	0	0	0
電話加入権	3,625,844	3,625,844	0
施設利用権	0	0	0
ソフトウェア	54,307,788	57,689,666	△3,381,878
有価証券	1,706,616	1,706,616	0
収益事業元入金	0	0	0
長期貸付金	0	0	0
敷金	4,988,000	4,988,000	0
長期性預金	0	0	0
流動資産	1,510,290,579	1,793,672,396	△283,381,817
現金預金	1,194,403,159	1,473,401,339	△278,998,180
未収入金	300,011,539	304,546,880	△4,535,341
短期貸付金	0	0	0
有価証券	0	0	0
仮払金	1,636,792	1,222,751	414,041
立替金	0	0	0
前払金	14,239,089	14,501,426	△262,337
販売用品	0	0	0
	10,493,445,889	10,955,391,628	△461,945,739

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,400,207,120	1,444,980,836	△44,773,716
長期借入金	641,940,000	708,600,000	△66,660,000
学校債	0	0	0
長期未払金	0	0	0
退職給与引当金	758,267,120	736,380,836	21,886,284
流動負債	576,112,274	499,125,832	76,986,442
短期借入金	66,660,000	66,660,000	0
1年以内償還予定学校債	0	0	0
未払金	60,697,943	61,943,987	△1,246,044
前受金	315,973,350	337,190,400	△21,217,050
預り金	41,474,314	33,331,445	8,142,869
賞与引当金	91,306,667	0	91,306,667
	1,976,319,394	1,944,106,668	32,212,726
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	12,519,055,029	12,387,733,030	131,321,999
第1号基本金	12,268,055,029	12,136,733,030	131,321,999
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	251,000,000	251,000,000	0
繰越収支差額	△4,001,928,534	△3,376,448,070	△625,480,464
翌年度繰越収支差額	△4,001,928,534	△3,376,448,070	△625,480,464
純資産の部合計	8,517,126,495	9,011,284,960	△494,158,465
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債および純資産の部合計	10,493,445,889	10,955,391,628	△461,945,739

注 記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

徴収不能引当金の計上基準

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

賞与引当金

教職員に対する賞与の支給に備えるため、当年度に負担すべき支給見込額を計上している。

退職給与引当金の計上基準

① 大学等の教職員については期末要支給額737,916,000円の100%を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付額の累積額との繰入れ調整額を加減した金額を計上している。

② 高等学校、中学校、小学校及び幼稚園の教職員については期末要支給額0円から東京都私学財団からの交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

③ 上記以外の私立大学退職金財団又は東京都私学財団に加入しない教職員及び本部所属の役職員については、期末要支給額0円の100%を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

・満期保有目的有価証券の評価基準は償却原価法である。

・有価証券の評価基準及び評価方法は移動平均法に基づく原価法である。

たな卸資産の評価基準及び評価方法

・最終仕入原価法に基づく原価法である。

食堂その他教育研究活動に付随する活動に係る収支の表示方法

・補助活動に係る収支は純額で表示している。

減価償却について

① 減価償却資産の計上基準について

土地、建設仮勘定、図書を除く有形固定資産(耐用年数1年以上で、1個あるいは1組の価額が3万円以上のもの)を減価償却資産として計上している。ただし、学生生徒等が使用する机、椅子等は少額重要資産として、金額の多寡に関わらず教育研究用機器備品に計上している。

② 減価償却の方法等について

・取得価額30万円以上の償却資産(音楽部門の取得価額30万円未満の楽器を含む)については、残存価額を取得価額の10%とした(車両及び機器備品は零とした)個別償却による定額法で減価償却を行っている。取得価額30万円未満の機器備品については、残存価額を零とした総合償却による定額法で減価償却計算を行っている。

・耐用年数は、「学校法人桐朋学園固定資産減価償却に関する内規」の別表によっており、主な耐用年数は以下の通りである。

建 物	鉄筋、鉄骨コンクリート造	50年
構 築 物	コンクリート造	15年
機器備品		10年

2. 重要な会計方針の変更等

① 改正後の学校法人会計基準(昭和46年文部省令第18号)の適用

当年度から、学校法人会計基準の一部を改正する省令(令和6年文部科学省令第28号)に基づく改正後の学校法人会計基準を適用し、計算書類及びその附属明細書の様式を変更している。

② 賞与引当金の計上

学校法人会計基準の改正により、引当金の計上基準が明確化されたことに伴い、当年度から計上している。

3. 減価償却額の累計額の合計額

4,941,914,255 円

4. 徴収不能引当金の合計額

0 円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。

土 地	96,785,979 円
建 物	0 円
定期預金	0 円

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 708,600,000円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. セグメント情報

(単位 円)

科目	部門	桐朋学園 大学院大学	桐朋学園大学	桐朋学園芸術 短期大学	幼稚園・小学校・ 中学校・高等学校	その他	総額
教育活動収入計		120,688,606	1,663,233,435		336,085,506	868,441,041	2,988,448,588
教育活動支出計		172,021,878	1,945,085,998		381,300,011	871,292,507	3,369,700,394
教育活動支差額		△ 51,333,272	△ 281,852,563		△ 45,214,505	△ 2,851,466	△ 381,251,806
教育活動外収支差額		0	△ 426,579		484,870	1,152,490	1,210,781
経常収支差額		△ 51,333,272	△ 282,279,142		△ 44,729,635	△ 1,698,976	△ 380,041,025
特別収支差額		4,915,026	△ 19,046,338		△ 17,091,552	△ 344,007	△ 31,566,871
基本金組入前当年度収支差額		△ 46,418,246	△ 301,325,480		△ 61,821,187	△ 2,042,983	△ 411,607,896
基本金組入額合計		0	△ 99,157,025		△ 24,024,830	△ 12,085,217	△ 135,267,072
当年度収支差額		△ 46,418,246	△ 400,482,505		△ 85,846,017	△ 14,128,200	△ 546,874,968

※注

- (1) セグメント情報は拠点区分別(設置学校・附属施設別)の収支情報内訳を示すものであり、必ずしも理事会が経営資源の配分の決定及び業績を評価すること等を目的とした財務情報にはなっていない。
- (2) 「幼稚園・小学校・中学校・高等学校」には、「桐朋幼稚園・桐朋学園小学校・桐朋小学校・桐朋中学校・桐朋女子中学校・桐朋高等学校・桐朋女子高等学校」を含んでいる。
- (3) 「その他」には、「学校法人部門・桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室・桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学音楽学部附属桐朋オーケストラ・7ガミー」を含んでいる。
- (4) 収入額及び支出額の各セグメントへの配分方法は、昭和55年11月4日付け文管企第250号文部省管理局長通知「資金収支内訳表等の部門別計上及び配分について(通知)」に記載の方法を適用している。

9. 重要な偶発債務

該当なし

10. 子法人に関する事項

該当なし

11. 学校法人の出資による会社に係る事項

該当なし

12. 関連当事者との取引の内容に関する事項

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位 円)

属性	役員・法人等の 名称	住所	資本金 又は出資金	事業の内容 又は職業	議決権の 所有の割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				

13. 学校法人間の財務取引

該当なし

14. 重要な後発事象

該当なし

15. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

種 類	当年度(2026年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	1,706,616	7,240,968	5,534,352
(うち満期保有目的の債券)	0	0	0
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	0	0	0
(うち満期保有目的の債券)	0	0	0
合 計	1,706,616	7,240,968	5,534,352
(うち満期保有目的の債券)	0	0	0
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	1,706,616		

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度(2026年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	0	0	0
株式	1,706,616	7,240,968	5,534,352
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	1,706,616	7,240,968	5,534,352
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	1,706,616		

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リースは次の通りである。

リース物件の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	25,318,320円	17,847,092円
管理用機器備品	2,671,620円	833,933円
カーテン(経費処理・教育)	0円	0円
カーテン(経費処理・管理)	0円	0円

(3) 純額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

(単位 円)

支 出	金 額	収 入	金 額
人件費	9,087,856	補助活動事業収入(売上高)	41,823,779
管理経費(経費)	38,945,481	受取利息・配当金	0
借入金等利息	0	雑収入	256,869
売上原価	0		
計	48,033,337		42,080,648
		純 額	△ 5,952,689

本 膳

監 査 報 告 書

2026年6月5日

学校法人 桐朋学園
 理事会 御中
 評議員会 御中

監事 伊藤 昌毅 印

監事 関口 恭三 印

私たち監事は、2025年4月1日から2026年3月31日までの2025年度の学校法人桐朋学園の業務
 及び財産の状況並びに理事の職務の執行状況について監査を行いました。その方法及び結果につ
 いて、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

- (1) 理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、
理事会及び評議員会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況に
ついて報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本法人の業務及
び財産の状況並びに理事の職務の執行状況を調査いたしました。
- (2) 事業報告に記載されている理事の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保する
ための体制その他学校法人の業務の適正を確保するために必要なものとして私立学校法施行
規則第13条各号に掲げる体制の整備に関する理事会決議の内容及び当該決議に基づき整備さ
れている体制（内部統制システム）について、理事及び職員等からその構築及び運用の状況に
ついて定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (3) 会計監査人あずさ監査法人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監
視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に
応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保す
るための体制」（私立学校法施行規則第37条3号）を整備している旨の通知を受け、必要に
応じて説明を求めました。

2 監査の結果

- (1) 計算関係書類及び財産目録の監査結果
 - ① 会計監査人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。
- (2) 事業報告等の監査結果
 - ① 事業報告及び附属明細書は、法令及び寄附行為に従い、本法人の状況を正しく示しており、本
法人の業務に関する決定及び執行は適切であると認めます。
 - ② 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はない
ものと認めます。
 - ③ 内部統制システムに関する理事会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統
制システムの整備・運用の状況について、指摘すべき事項は認められません。

以上

2025年度学生会(預り金会計)決算表

収入の部 (単位:円)

内訳	決算額	摘要
前年度繰越金	13,569,688	
学生会費	3,425,400	@3,300×1038
銀行利息	20,989	
桐朋祭プログラム広告掲載料	380,000	
桐朋祭飲食企画売上金	352,550	
合計	17,748,627	

支出の部

内訳	決算額	摘要
桐朋祭調律料	162,800	
桐朋祭プログラム、横断幕印刷	1,268,232	
桐朋祭撮影費	1,470,000	
桐朋祭ゲスト謝礼	341,208	
桐朋祭入場整理レンタル品	94,541	
桐朋祭スタッフジャケット他	137,236	
コピー機使用料、印刷費	129,056	
電話使用料	91,944	
企画費	323,106	
雑費	605,152	事務用品、装飾費
合計	4,623,275	

次年度繰越金	13,125,352	
--------	------------	--

2026(令和8)年度 桐朋学園音楽部門入学試験結果(2026年5月1日現在)

区分	定員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
大学「学校推薦型選抜(指定校第一種)」	15	15	15	15	15
大学「学校推薦型選抜(指定校第二種)」	50	47	47	47	45
大学「総合型選抜(総合型A日程)」	25	36	36	35	35
大学「総合型選抜(総合型B日程)」	若干名	8	8	7	7
大学「総合型選抜(外国人留学生)」	若干名	6	5	2	1
大学「総合型選抜(特待生)」	若干名	3	3	3	3
大学「総合型選抜(飛び入学)」	若干名	0	0	0	0
大学「一般選抜」	40	47	46	43	26
合 計	130	162	160	152	132
大学「一般選抜(編入学)」	若干名	1	1	1	1
大学院音楽研究科 修士課程(A日程)	45	38	38	35	34
大学院音楽研究科 修士課程(B日程)	若干名	14	13	10	10
大学院音楽研究科 修士課程(外国人留学生)	若干名	29	28	18	14
大学院音楽研究科 博士後期課程	3	7	7	2	2
大学院 合 計	48	88	86	65	60
高等学校音楽科(一般)	90	46	45	44	42
高等学校音楽科(第一種・第二種推薦)	10	2	2	2	2
高校 合 計	100	48	47	46	44
研究生[1](内部新規)	若干名	13	13	12	10
研究生[2](継続)	—	22	22	20	16
研究生[3](外部新規)	若干名	19	19	16	15
研究生 合 計	—	54	54	48	41
ソリスト・ディプロマ(新規)	若干名	4	4	2	1
ソリスト・ディプロマ(継続)	—	12	12	12	11
カレッジ・ディプロマ(新規)	若干名	36	35	33	27
カレッジ・ディプロマ(継続)	—	42	42	42	41
ディプロマ 合 計	—	94	93	89	80
科目等履修生(一般)	若干名	14	14	14	14

2026(令和8)年度 学生・生徒数(2026年5月1日現在)

区分	学級数	収容定員	在籍数	備考
桐朋学園大学 大学院〔博士後期課程〕(東京)	—	9	12	
桐朋学園大学 大学院〔修士課程〕(東京)	—	90	132	
桐朋学園大学院大学〔修士課程〕(富山)	—	20	11	
桐朋学園大学院大学 科目等履修生(富山)	—	—	5	
桐朋学園大学 音楽学部	—	620	521	2025年度入学生より入学定員130人変更
桐朋学園大学 音楽学部 科目等履修生等	—	—	135	
桐朋女子高等学校音楽科	6	300	151	
桐朋オーケストラ・アカデミー	—	—	65	
桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室	—	—	475	仙川教室のみ的人数

2026 年度 特待生・奨学生

〈2026 年度 桐朋学園音楽部門仙川キャンパス特待生〉

高1 安井 友理 (Pf)
高1 篠崎 千響 (Vi)
高1 米井 咲絢 (Vi)
高1 小西 陽茉莉 (Vc)
高1 益田 香音 (Vc)
高2 大谷 奏介 (Pf)
高2 西尾 美香 (Vi)
高3 中原 梨衣紗 (Vi)
高3 松木 翔太郎 (Vi)
高3 渡邊 伶音 (Vc)
大1 小西 真璃花 (Vi)
大1 的場 桃 (Vi)
大1 若生 麻理奈 (Vi)
大1 片山 和音 (Vo)
大2 片岡 琴佑 (Pf)
大2 加藤 皓介 (Pf)
大2 田所 周琉 (Pf)

大3 中瀬 智哉 (Pf)
大4 森松 風仁 (Fg)
大4 黒田 希美 (Tp)
大4 近藤 穂矢 (Hp)
修士1 稲沢 朋華 (Pf)
修士1 菅沢 雄星 (Vo)
修士2 南 ここと (Pf)
SD 2 神原 雅治 (Pf)
SD 3 藤野 瞳子 (Fi)

〈2026 年度「チェロアンサンブル・サイトウ」奨学金〉

高2 高階 杏 (Vc)
大2 相原 一誠 (Vc)
大2 森 朝美 (Vc)
修士2 宮之原 陽太 (Vc)

〈2026 年度 宗次徳二桐朋学園大学院大学特待奨学金〉

修士1 稲沢 朋華 (Pf)

修士1 後藤 奈々 (Vo)
修士2 馬場 彩乃 (Pf)
修士2 Wang Jiaxin (Vo)
博士2 由本 菫 (Vo)

〈2026 年度 桐朋学園大学院大学特待生〉

1 年 重森 光太郎 (Pf)

〈2026 年度 桐朋学園大学院大学奨学金〉

1 年 黒田 桃花 (Pf)
1 年 西山 響貴 (Pf)
1 年 石井 克 (Vc)

〈2026 年度 子供のための音楽教室特待生〉

中1 山路 優美 (Pf 相模原教室)
中2 志水 伶衣 (Vc 仙川教室)
中3 土田 みつ (Pf 仙台教室)
中3 大原 嵩稀 (Vi 仙川教室)

録音スタジオ完成 (2025 年 10 月)

主に MSD (Music and Sound Design) の教育研究に資することを目的に上野隆司様からのご寄付により、調布キャンパスに本格的な録音スタジオが完成いたしました。現在、録音技師の配置等、運用体制の整備を進めております。

MSD 授業等での活用に加え、学生・生徒のコンクール審査等に必要演奏録音にも利用できるよう、教育環境のさらなる充実を図ってまいります。



役員紹介



後列左より 学生部長 合田香、高校部長 森山智宏、図書館長 安田和信、音楽教室部長 新井博江
前列左より 東京・大学院研究科長 清水和音、学部長 沼野雄司、学長 辰巳明子、理事 姫野雅子、教務部長 杵鞭広美



桐朋学園音楽部門
TOHO GAKUEN SCHOOL OF MUSIC

桐朋学園大学音楽学部

桐朋学園大学大学院音楽研究科

桐朋女子高等学校音楽科 (男女共学)

桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室

桐朋学園大学院大学音楽研究科 (修士課程)

桐朋オーケストラアカデミー

■仙川キャンパス

〒182-8510 東京都調布市若葉町 1-41-1
TEL:03-3307-4101

■調布キャンパス

〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘 1-10-1
TEL:042-444-7055

■富山キャンパス

〒930-0138 富山県富山市呉羽町 1884-17
TEL:076-434-6800

ホームページ <https://www.tohomusic.ac.jp/>

